

-臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願い-

現在、東京女子医科大学附属足立医療センター外科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ3次治療における血清CRP/アルブミン比の意義

[研究対象者]

2015年4月～2023年8月までの間に、東京女子医科大学東医療センター（現足立医療センター）外科にて切除不能進行・再発胃癌と診断され、同外科で治療を受けられた方

[利用している診療情報等の項目]

診療情報等：診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、併存疾患名

検査結果：血液検査（血清アルブミン値、CRP値、総コレステロール値、血液分画（リンパ球数、好中球数、単球数）、血小板）

病理組織学的所見：最大腫瘍径、癌の占拠部位、切除断端病理組織学的所見、リンパ節郭清の個数、癌の深達度、リンパ節転移の有無、癌の進行度分類

術後経過：手術時間、手術時の出血量、手術後退院までの期間、術後合併症の有無と内容

化学療法：種類、施行期間、奏効率、最良総合効果（完全奏効、部分奏効、進行、安定）、有害事象（食欲不振、下痢、好中球減少、貧血など）

予後：全生存期間、無増悪生存期間

[利用の目的]（遺伝子解析研究：無）

切除不能進行・再発胃癌に対して化学療法を施行した方に対して、化学療法施行前の血清CRP/アルブミン比が化学療法による有害事象および予後に与える影響について解明することを目的としています。

*CRP/アルブミン比とは、予後を予測するための炎症性マーカーの一つで、血清CRPとアルブミンを比率化した値です。

[研究実施期間] 倫理審査委員会承認後より2026年12月までの間（予定）

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には氏名、生年月日等の情報を削り、個人が特定されることがないように加工をしたうえで取り扱っています。

[機関長、研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

機関長：東京女子医科大学 理事長 岩本絹子

研究責任者：東京女子医科大学附属足立医療センター 外科 助教 西口遼平

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学附属足立医療センター 外科 助教 西口遼平

電話：03-3857-0111（応対可能時間：平日9時～16時）